

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 3月 1日

事業所名 ちゃお アミーカ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		(参考)指導訓練室:40.7㎡ 静養室兼相談室:12.4㎡	
	2 職員の配置数は適切である	○		利用人数に対して基準以上の人員を配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		スケジュールや荷物を片付けるロッカーは視覚的に分かりやすいように写真やイラストを用いている。事業所は6階にあるが、エレベーターにて1階と往来が可能である。また、事業所内の玄関、床面はフラットにしている。ただし、手すりは設置されていない。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		個別で課題をする場所と集団で活動する場所を分けている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		課題についての目標を設定して実行し、その後の検証について、都度ミーティングを行っている。	非常勤職員については、常時参画していない状況である。今後は非常勤職員も参画できる体制を構築していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果はホームページで公表している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価を依頼している。しかし、現時点ではまだ評価を受けていない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用前だけでなく利用中も定期的に面談等を行い、変化等の状況に応じた計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		アセスメント、面談等で本人及び保護者の希望等を総合的に勘案し、必要な支援とその内容を提案、実施している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に則ったプログラムの作成、実施をしている。また、モニタリングで本人の様子が変われば支援計画の見直しを行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当職員が他の職員と話し合いながら、利用者の特性に配慮したプログラムを作成している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月活動プログラムを検討、更新している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		アセスメント、面談、個人や保護者の希望等を基に、必ず個別と集団を組み合わせる計画を作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		利用者についての前回からの申し伝え事項、送迎、支援内容、その他留意すべき事項等を確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		基本的に、支援終了後に振り返りを行っている。当日に行うのが困難なときもあるが、その時は翌営業日に必ず行き、情報共有を行う。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回以上モニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて区の家庭児童相談室や保健師と連携している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援していない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援していない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		保護者を通じての情報共有である。希望があれば実施している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		保護者を通じての情報共有である。希望があれば実施している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		障がい児支援の専門機関とは連携していないが、専門家(大学講師等)とは連携をとっており、必要に応じて相談をし、助言を受けている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		当面は、事業所内での活動を重点的に実施していく。今後の利用者の特性や希望によっては、他事業所やクラブ等との交流プログラムの検討する可能性もある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		阿倍野区障がい児部会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳を用いて行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		過去に専門家を招いての保護者向けセミナーや面談を通じて助言は行ったが、ペアレント・トレーニング等具体的なプログラムを提供することはできていない。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用前には重要事項説明書を用いて詳細に説明を行い、利用中に関しても、利用者から求めがあれば、随時説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画を作成した際は必ず、長期目標と短期目標、具体的な支援の方法を説明し、保護者の同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		児童発達支援管理責任者を中心に、随時必要な助言と支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在、父母の会、保護者会にその他これらに類するものは組織されていない。 今後、保護者からの要望があれば、検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理責任者が相談を受け、迅速に対応するようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		各月ごとに活動スケジュールを配布し、保護者に対して情報発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		利用者の個人情報については、必要な時以外は施錠して管理している。	個人情報の公開(ホームページ等)については、事前に本人及び保護者に書面による同意を得ることとしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳、定期的な面談、送迎時の申し伝え、必要であれば個別での電話連絡等を通じて、お互いの意思疎通を図るよう配慮している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		当面は、事業所内での活動を重点的に実施していく。利用者の特性や希望によっては、検討課題となる可能性もある。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年間計画を基に避難訓練を実施している。ビル全体の避難訓練を実施し、消防署職員立会いの下、消火器の使い方の練習も行っている。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		アセスメントの際に確認し、その後の変更等については保護者から連絡いただくようにしている。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			現在、食物アレルギーの方はいない。アレルギーのある場合は、保護者からアレルギー内容を詳細に聞き取り、それに基づいて対応する。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例があれば記録をして、その内容をミーティング時に周知し、情報共有している。また、想定される他の事例等についても、議論しており、事故発生を防ぐ措置を講じている。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に1回、研修する機会を設けて、職員の倫理観の向上に努めている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体への危険が生ずる可能性がある場合のみ、事前に利用者に説明し、同意を得た上で計画に記載し行うこととしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。